

2024年度「若者×ツナグバ」 活動報告書

団体名：enjoy spielplatz

活動名：遊んで学ぶ新しい居場所

★ 団体紹介 （結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

<結成のきっかけ>

それまで活動していた団体の中で、もっと自分達でもやってみたいと思い、2024年1月頃に更と一緒に活動してくれる仲間を集めて結成しました。

<構成メンバー>

大学の児童教育学科に所属している大学3年生で構成されており、将来、先生を目指しているメンバーが多く所属しています。

<結成の目的>

自分達の「やってみたい」を気持ちやイメージを実際に形にしながら、子ども達と関わっていく中で、自分の成長や課題を発見するだけでなく、子ども達に参加してもらうイベントを開催することで、企画運営で必要なことや子ども達との関わり方などを実践で学ぶことができるようにすることが大学生の目的です。また、地域の小学生に参加してもらうことで、小学校では経験できないことを経験したり、新たな遊び場となったりすることを小学生に参加してもらう目的としています。

<活動内容>

近隣にある小学生にイベントをすることを宣伝し、応募してくれた小学生と一緒に工作をしたり、体を動かしたりしました。具体的には、活動概要で紹介します。

★ 活動内容 (実施日、場所、目的、内容、参加人数等)

<第1回 粘土 de キーホルダー>

実施日：7月27日(土) 14:00~16:00

実施場所：広島女学院大学

主な内容：粘土に絵の具を混ぜて、自分のイメージした色・形を作りだし、キーホルダーを作成する。

参加人数(小学生)：17人

参加人数(大学生)：6人

感想：

- ・小学生も大学生もコミュニケーションを取りながら、楽しむことができた。
- ・無事に全員がキーホルダーを作ることができた。
- ・時間配分が難しかった・・・⇒余裕を持った時間配分しておく方が良い。
- ・隙間時間の過ごし方が難しく感じた。⇒進行をスムーズにできるように共有を確実にしておく。



<第2回 ウォーターバトル>

実施日：8月3日(土) 14:00~16:00

実施場所：広島女学院大学

主な内容：自分だけの水鉄砲を作り、作った水鉄砲や水風船を使って水遊びをし、暑い夏を楽しむ。

参加人数(小学生)：13人

参加人数(大学生)：8人

感想：

- ・全員が暑さに負けず、思いっきり外で水遊びを楽しむことができた。
- ・前回の反省を生かし、時間配分や隙間時間の過ごし方、声かけなどを工夫したことで、効率良く動くことができ、時間内にイベントを終えることができた。
- ・細かい部分の対応を考えておいた方が、対応しやすいと感じた。(班の行動の順番、お迎えの場所など) ⇒対応方法をまとめて、共有しておく。
- ・休憩(水分補給など)の切り替えをもっとしっかりと行い、その時間を使って、更に楽しむための準備がしっかりと行えたら良かった。⇒大学生の中でも役割分担をしっかりと行い、切り替えを分かりやすくしたり、声かけの工夫を考える。



<第3回 クリスマスパティー～クリスマスの飾りを作ろう～>

実施日：12月21日（土）10：00～13：00

実施場所：広島女学院大学

主な内容：宝探しを行い、その宝や飾りを用いて、自分だけのクリスマスツリーを作成する。

参加人数（小学生）：19人

参加人数（大学生）：5人

感想：

- ・全員が楽しく全ての活動を行うことができた。
- ・色々な材料を用意していたため、子ども達1人1人が自分だけのクリスマスツリーを作ることができた。
- ・活動の中で子ども達の協力している姿を見ることができた。
- ・声かけの仕方を少し工夫するだけで子ども達への分かりやすさが変わると感じた。⇒子ども達に分かりやすい声かけについて考える方が良い。
- ・もっと色々な遊びの発展を考えておくことで、もっと遊びが楽しくなったかもしれない・・・⇒他に遊び方がないか、発展の仕方がないか、想像をし、準備をしておいた方が良かった。



★ 実施に伴う効果 (どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。)

○子ども達と関わる機会ができ、様々な力がついた。

学校だけでは、子ども達と関わる機会は限られてしまうが、子どもを対象としたイベントを実施することで、学校以上に子ども達と関わることができ、どうやって子ども達と関わっていけば良いのか、どうやって説明したら分かりやすいのかなどについて、実践を通して学び、成長することができたと思う。また、イベントを企画・運営することを通して、企画・運営をする力がついたと共に、主体的に動く力や周りを見て動く力、企画を実施するにあたって、計画的に準備する力などがついたと思う。

○子ども達の交流する新たな場となった。

近隣にある小学校2校の小学生を対象にイベントを実施したため、違う学校の子も同士が交流する機会になった。また、小学校では行うことのない楽しい企画を行うことができ、今までとは違った遊び場にすることができたのではないかと考える。

○体を動かしたり、創造力を働かせ、制作したりする機会ができた。

子ども達にとっても、私達にとっても、イベントを通して、自分のイメージしたものを形にする楽しい時間になることができたと思う。また、作ったものを使って遊んだり、宝探しをしたりすることを通して、体を動かす機会にすることもできたと考える。

★ 苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

<苦勞した点>

○子ども達の年齢差に応じたイベントの実施

小学1年生から6年生までを対象としてイベントの実施したため、1年生でも制作を楽しむことができ、6年生がやってもやり応えのあることにする必要があり、どうすれば、参加者全員が楽しむことができるのかを考えて、イベントを実施することに苦勞をした。

○子ども達の興味関心の違いによる雰囲気作り

同じイベントに興味関心を持って参加してくれていても、そのイベントの中で興味関心があるものが少しずつ異なっているが、全員が同じくらいイベントを楽しんで欲しいし、その部分に興味を持って参加してくれた子どものために明るく楽しい雰囲気を作ってあげられるようにしたいと思い、イベントを実施していた。そのため、全員が興味関心を持って、楽しく一生懸命活動に取り組むことができるように雰囲気を作ることに苦勞をしたし、そのような雰囲気を作れるように気をつけた。

○安全管理

子ども達も私達も色々な活動を行うにあたって、安全にイベントを終わることができるようにすることは必要不可欠である。そのため、制作の場面でも、体を動かす場面でも、全員が安全に楽しく活動ができるように、安全管理を徹底することに注意をした。

<課題>

○運営する人数と実施日

団体自体、8人しか居らず、全員の予定が合う日となると、更に少なくなってしまうため、準備は全員で行っても、イベントを実施する日に運営側の人数が少なくなってしまう、イベントの中で忙しくなることがあった。また、思っている以上に都合が合わなかったり、準備に時間がかかったりしてしまい、思っていたようにイベントをたくさん実施することが難しかった。

○イベントにかかる費用の計画的な使用

一回のイベントでの費用を出来るだけ抑えて行っていたが、援助してもらった費用が結構余ったため、もう少し計画を立てて、イベントに費用を使っても良かったのではないかと思った。しかし、そのためには、イベントを計画的に行い、何にどのぐらい必要なのかについて、しっかりと予定を立てる必要があると感じた。

<展望>

○保護者の方にも楽しんでもらえるイベントの実施

私達は、これまで子ども達を預かって、イベントを実施してきたが、保護者がいないため、小さい子ども達の中には参加が難しい子ども達もいた。そのため、保護者の方と一緒に来て、参加することのできるイベントの実施をしていきたい。

○他団体との連携

私達が活動をしている地域には、他にも、子ども達を対象としてイベントを実施している団体があるため、もっと多くの団体や地域と交流をし、子ども達と関わることのできる機会を作っていきたい。

★ 若者×ツナグバへの提言 (改善につながるヒント、要望)

マツダ財団の皆様、この度は、若者×ツナグバでの支援をしていただきありがとうございました。

若ツナを通して、今まで経験することのできなかつたことを貴重な体験をすることができました。そして、イベントを実施することの大変さや計画性、様々な視点から見ることの大切さ、丁寧に準備しておくことの必要性など多くのことを学び、1年間を通して成長することができました。そして、イベントが無事成功した時、これまでにないやりがいや達成感を感じるすることができました。

さらに、自分達のやりたいという気持ちや子ども達の声を参考に、他の団体との連携や地域との交流を通して、より安全で充実した活動を行っていかれたらと思います。

今回、定例会などをやってみて、オンラインの方が対面よりも都合がつきやすくはあるのですが、オンラインだけではなく、対面なども挟み、話しやすい機会を作ってもらえたら、もっと他の団体との連携を取りやすいのではないかと感じました。

これからも、色々な団体がそれぞれのやってみたいを叶えていけるような支援をよろしく願いいたします。